

H20-01 古生物ワーキンググループ（通算第2回）議事録

日時：2008年11月4日（火） 13：20～16：50

場所：JAMSTEC 東京事務所 小会議室

出席者：

岩井雅夫（高知大学；共同議長）、相田吉昭（宇都宮大学）、亀尾浩司（千葉大学）、林 広樹（島根大学）、山崎 誠（秋田大学）

事務局：梅津慶太 吉岡由紀（AESTO）

欠席者：

鈴木紀毅（東北大学；共同議長）、WG 委員：河潟俊吾（横浜国立大学）、須藤 斎（名古屋大学）
（以上敬称略）

配布資料

資料1. H19-01 古生物 WG（通算第1回）議事要録

資料2. 2007 年度活動報告書

資料3. Handbook for Shipboard Paleontologists(ODP Technical Note)抜粋（目次のみ）

追加資料1. 「ちきゅう」科学オペレーションポリシー一覧（内容物は回覧）

議事

出席予定者がそろったため、予定開始時刻を10分くりあげ会議を開始。

配布資料の確認の後、資料1、資料2に基づきこれまでの活動経緯を振り返り、古生物 WG のおかれた現状を確認した。すなわち、平成20年度上半期は e-mail ベースで協議を行い、1) 「ちきゅう」船上搭載図書のおすすめを行った（ただしその後の配置状況については連絡がない）、2) STP ロードマップ策定にむけ、古生物分野ではいくつかの提案を行った、また、3) 今期の主な課題は、「乗船研究者マニュアル」の作成である。

次に実行項目の進捗状況について確認作業を行い、4件中2件の実行完了が報告された。一方残り2件については継続調査とすることとした。

【実行項目進捗状況】

H19-01 古生物 WG 実行項目1：古生物分野乗船研究者マニュアル作成（実行済み）

標記について科学計測部会に提案、承認され、本会議の審議項目として掲げられていることが共同議長から報告された

H19-01 古生物 WG 実行項目2：船上設備・支援体制の掌握（継続調査）

設備・機器の改善状況ならびに船上設備・消耗品等の情報開示を CDEX に求めてきているが、正式な報告はなく、今後継続し要請していくことが共同議長より報告された。

H19-01 古生物 WG 実行項目3：陸上設備・支援体制のニーズ掌握（継続調査）

J-DESC コアスクール微化石コース（微化石サマースクール）の開催に際して、高知コアセンターを利用したいとのニーズがあるものの、いまだ実現されていないことが、複数出席者より指摘された。

H19-01 古生物 WG 実行項目 4 : MRC 活動方針の掌握（実行済み）

Nick Pisiias 博士（オレゴン州立大学）から環太平洋表層堆積物ならびに放散虫スライドの提供提案があり、国内関係者が努力した結果、国立科学博物館に保管される方向で進んでいることが、相田委員より報告され、歓迎された。また、アウトリーチに関しては、IODP-MRC 活動に関連する国立科学博物館企画展示が準備されていること、試料活用活性化については即効策があるわけではないものの微化石スクールでの活用を念頭においた「生層序教育用スライド」作成が必要と認識していること、が報告された。

議事次第に基づく報告事項、協議事項については以下の通り。

（報告事項）

1. STP ロードマップ

古生物 WG から提案した事項は評価が低く、すべて策定対象外とされたことが、共同議長より報告された。

2. その他

1) Taxa Name List 進捗状況

放散虫化石については契約が済み、作業を開始したこと、珪藻化石については契約手続き中であること、がそれぞれ関係者より報告された。

2) 微化石サマースクール実施状況

本年度 9 月に秋田大学で開催された微化石サマースクールの実施概要について、山崎委員より報告された。

3) IODP 航海の最新情報（JR および「ちきゅう」航海日程、乗船研究者の確定状況）について事務局より情報が提供された。

（協議事項）

1. 乗船マニュアル

(1) 作成方針

マニュアル作成の目的や、目的を達するための公表形態に関する種々可能性について議論された。

(2) 構成

ODP テクニカルノート（資料 3）を参考に、現在入手可能な情報、今後情報収集が必要な事項、関係者が協力し執筆する必要がある事項、追加して盛り込む必要がある事項、などについて議論した。「ちきゅう」に関しては追加資料 1 が配布され、科学オペレーションポリシー各種を JAMSTEC ホームページから入手可能であることが紹介された。会議中に全ての事項を網羅し収束することは不可能なので、今後メールベースで議論をして構成の詳細をつめることが確認された。

(3) 執筆担当・期限

今年度～次年度の航海スケジュールを確認し、マニュアル作成計画を検討した。各プラットフォーム固有の乗船者情報は、関係者が分担し情報収集・原稿作成に努めることが確認された（JR 船上環境－担当者：岩井・鈴木，「ちきゅう」船上環境－担当者：林・相田，MSP 環境事例－須藤・鈴木）。

2. その他

次回古生物 WG は、2009 年 2 月末～3 月で調整することとなった。

H20-01 古生物ワーキンググループ（通算第2回）合意事項・行動計画

【合意事項】

合意事項1. 乗船マニュアル古生物編の作成

古生物 WG は、IODP 航海参加古生物研究者を支援、IODP に貢献することを目的に、乗船者マニュアル古生物編生物編を作成しその内容充実をはかる。

合意事項2. 古生物編マニュアルの目的

乗船者マニュアル古生物編は、1) 古生物研究者が IODP 航海に参加する際必要な情報を提供すること、2) 古生物学データの品質保障・品質管理の道筋を示すこと、3) 航海に参加する若手乗船研究者の育成・輩出を支援すること、を指針として作成する。

【新規行動計画】

実行項目1. マニュアル目次策定

メールベースの議論を通じ、古生物編マニュアルに盛り込むべき必要項目について可能な限り列挙・整理し、目次・骨子原稿を作成する。実行者：全古生物 WG 委員、期限：次回古生物 WG

実行項目2. マニュアル作成に際しての制約条件掌握

マニュアルの公表・配布様式について、どのような制約があるか、国内関係機関や組織に照会する。また公表に際し課題となる引用物の著作権問題をどのような形で解決できるか、各種事例を調査し、解決方法を模索する。実行者：事務局・共同議長、期限：次回古生物 WG。

実行項目3. IODP 航海乗船者に対する協力依頼

古生物 WG は、乗船研究者マニュアル作成に際し最新の船上研究環境を盛り込むべく、平成 20 年度～21 年度に実施される IODP 航海乗船者に、情報収集ならびに原稿作成に際しての協力を依頼する。実行者：共同議長、期限：各航海開始前。

実行項目4. 微化石サマースクール資料等の収集

乗船研究者マニュアル作成に際しての参考資料として、微化石サマースクールで利用されてきた資料などを、利用制限に関する情報とともに収集する。実行者：山崎委員・鈴木共同議長、期限：次回古生物 WG。

【その他】

H19-01 古生物 WG 実行項目2：船上設備・支援体制の掌握（継続調査）

H19-01 古生物 WG 実行項目3：陸上設備・支援体制のニーズ掌握（継続調査）